

守り
育てる
家づくり



給湯器が生む 快適な生活

家庭用給湯器を取り上げます。単にお湯を沸かすだけでなく、各家庭の「熱源」として重要な役割を担っています。

給湯器の能力と主な用途

24号	冬でもシャワーをよく使う若いご夫婦とお子様2人の家庭向け。シャワーとキッチンの使用時間が重なりがちなお家庭にも。
20号	ご夫婦2人の世帯向け。一度にたくさんのお湯を必要としないご家庭にも向いています。
16号	單身世帯や、主にシャワーを使う場合に。

※20号の給湯器は、水温25度の温水を1分間に20リットル出す能力がある

熱の使い方

給湯器は、生活を支える重要な機器です。かつてはお風呂の湯を沸かすのが主な役割でしたが、高度経済成長期に台所への給湯が普及し、2000年ごろからは床下に温水を巡らせる床暖房も一般化してきました。こうした給湯だけでなく、熱は浴室乾燥にも使われています。もちろん冬場は浴室暖房の大元にもなります。熱の起こし方によって、ガス給湯器、電気給湯器、石油を使う給湯器などがあります。運転コストが安く耐久性もあり、メンテナンスも容易とされるガス給湯器を主に説明します。

快適と健康

湿度が高い梅雨から夏にかけて活躍するのが、浴室暖房乾燥です。「換気」にして「温風」で浴室を乾燥すれば、カビが発生する可能性はかなり低くなります。「衣類乾燥」モードにすれば風呂場で洗濯物を乾かせます。天気や時間を気にせず干せるのが助かります。室内干し特有の嫌な臭いも発生しにくく、花粉などの付着も避けられます。冬場は、居室に床暖房を設置すれば足元から優しく温まります。エアコンのようにホコリが舞い上がるこ

ともありませんし、空気が乾燥しにくいのが特徴です。

省エネの工夫

ガス給湯器の地球温暖化ガス排出量も技術開発とともに減っています。高温の排気を再利用する潜熱回収型給湯器「エコジョーズ」が代表的です。給湯器の排気は、約200℃もあります。大気中へ放出して（捨てて）いた排気を再利用してお湯を作ります。熱効率は90%超にまで向上しています。こうした技術開発により、ガスの使用量やCO₂の排出量も従来の機器より、約13%削減できます。

熱源リフォーム

最近では電気とガスを用途によって組み合わせるハイブリッド給湯器も出てきています。たとえば少量のお湯を沸かすときは電気、お風呂を入れる場合にはガスなどと熱源を切り替え、効率良くお湯を沸かすことができます。熱源のリフォームは生活を快適にするのももちろん、初期投資は必要ですが省エネで月々の光熱費負担を減らせます。また、二酸化炭素などの地球温暖化ガスの排出を減らすことができるので環境への貢献も可能になります。

読売不動産

本社 東京都千代田区大手町 1-7-1 読売新聞ビル内
大阪支社 大阪府大阪市北区野崎町 5-9 読売大阪ビル内

TEL (03) 3217-8309 FAX (03) 5200-1833
TEL (06) 6363-8055 FAX (06) 6316-1400